

学びの架け橋

第1号

R7.5.8 発行

発行者

岡谷市教育委員会

岡谷市では、川岸地区の学校施設整備に合わせ、異年齢の子どもをつなぎ、未来に通じる新たな学び舎の創出に関する基本的な考え方をまとめた「川岸学園構想」を策定しました。本構想では、現在の川岸小学校と岡谷西部中学校を小中一貫の義務教育学校に移行するとともに、幼児教育と義務教育をつなぐことにより、子どもたちの健全な成長と豊かな学びの創造を展望しています。

さらに、「川岸学園構想」をモデルケースとして、市内他地区においても施設分離型小中一貫教育の可能性を探るべく、以下のとおり、その基盤づくりに取り組み始めました。

テーマ「おかやのまちじゅう学園化構想」

【取組の重点】

- (1) 市内7小学校、4中学校を学校群化（グループ化）
- (2) 訪問型交流とネットワーク型交流のスタイル構築
- (3) 幼保小接続期カリキュラム「おかや絹結プログラム」の充実、実践
- (4) 新たな岡谷版コミュニティ・スクールへの移行
- (5) 市内全域への小中一貫教育（施設分離型）の基盤づくり



この取組は、長野県教育委員会から「ウェルビーイング実践校 TOCO-TON（トコトン）」に指定されました。この指定を受け、岡谷市教育委員会では、市内小中学校9年間の義務教育を学びの連続・連携の視点から見つめ直し、新たな学び創造の可能性を検討していきます。その内容を保護者・地域の皆様と共有することを目的として、本通信「学びの架け橋」を発行して参ります。

TOCO-TONって何？

長野県教育委員会は、一人ひとりの「好き」や「楽しい」「なぜ」とことん追求するために、子どもが自ら学び方等を選択し自己実現できる学校を目指し、学校の仕組み変革に取り組む学校を「ウェルビーイング実践校 TOCO-TON（トコトン）」に指定しました。（詳細は県教委ホームページ右 QRコード参照）



ウェルビーイング実践校
TOCO-TON（トコトン）

「ウェルビーイング（Well-being）」とは、心身ともに良好な状態で、人生において満足感や幸福感を感じている状態を指します。日本語では「幸福」「健康」「福祉」などと訳されることもありますが、単なる身体健康や一時的な快楽ではなく、より広く深い、人間の豊かさや充実した生き方を含んだ概念です。第4次長野県教育振興基本計画（R5年度～R9年度）では、これからの長野県教育の目指す姿を

個人と社会のウェルビーイングの実現

～一人ひとりの「好き」や「楽しい」「なぜ」とことん追求できる「探究県」長野の学び～と決めました。これに向けての具体的な施策の一つが「ウェルビーイング実践校 TOCO-TON（トコトン）」です。

第3期岡谷市教育大綱(2024-2028)においても、岡谷市がめざす教育の姿について

子どもたちの有用感に満たされた幸せの実現に向け、一人ひとりの人生の礎となる、確かな学びと成長の支えにより、自己肯定感と自己有用感を醸成するとともに、共生社会を生き抜き、創造性溢れる、豊かな感性と人間性を育みます。(後略)

としています。これは県教育委員会が掲げている「個人と社会のウェルビーイングの実現」と一致する考え方です。

学校群化で 何を目指すか

「おかやのまちじゅう学園化構想」取組の重点の一つとして「市内7小学校、4中学校の学校群化（グループ化）」を挙げました。学校を学校群化（グループ化）するとはどういうことなのでしょうか。

小学校と卒業した子どもの進学先となる中学校とが連携することはこれまでも行ってきました。支援に必要となるそれぞれの子どもに関する情報交換はもとより、小学生による中学校見学や体験授業も実施してきました。

また市内小中学校では、児童生徒自身によるいじめ根絶の取組として、中学校区ごとに生徒会や児童会の役員が中心となり、全中学生と小6児童の協同的な活動（話し合い）を行っています。

学校群化（グループ化）とは、これまでのこうした取組をさらに進化・拡張させ、日常の学習や活動に関するカリキュラムを再構築して、より効果的で豊かな学びの創造を目指すというものです。

学校群化（グループ化）を進展させる上では、これまでの小中連携に加え、小小連携が重要な要素となります。同じ中学校に進学したとき、卒業した小学校によって子どもの経験や学習習慣に大きな差異があることは好ましくありません。かと言って市内小学校のカリキュラムを画一化すると学校の独自性が失われてしまいます。それぞれの小学校の特長を活かしながら、横の連携を図りつつ中学校につなげていくことが大切です。すなわち、義務教育9年間で目指す子どもの育ちを学校群内で共有することが不可欠となります。

川岸地区にある川岸小学校と岡谷西部中学校は、1小学校1中学校という立地環境から、他地区よりも小中連携が加速しやすい状況と考えられます。このことから「川岸学園構想」に掲げたように義務教育学校への移行を推進していきます。

一方、小井川小学校と上の原小学校は、卒業生が岡谷北部中学校と岡谷東部中学校に分かれて進学します。このことから義務教育9年間の育ちを展望するとき、岡谷北部中学校群と岡谷東部中学校群では学校群同士の連携・連動も必要になると考えられます。

また、幼児教育から小学校への円滑な接続の視点から、それぞれの学校群では近隣の幼稚園・保育園・認定子ども園との交流・連携も大切にしていきたい取組です。

このように、市内小中学校を学校群化（グループ化）することは、「おかやのまちじゅう学園化構想」に向けて取り組むための“一丁目一番地”と言えるものなのです。

